

## 生活改善運動とは

戦後の農村の女性の生活は、苦勞の多いものでした。農繁期には1日12時間以上の重労働。家に帰れば家事。おかずを作る時間があるならその分農作業に回したいほど忙しく、ご飯に漬物と味噌汁だけで食事を済ませ、寝たと思ったらもう朝。過勞と栄養不足とで倒れる人も少なくない時代でした。

GHQ(連合国総司令部。当時は進駐軍と呼ばれていました。)の指導で、厚生省内に農村女性の生活環境改善と、地位の向上を目指す新しい課が出来ました。県では生活改良普及員というスタッフを採用しました。家政や被服・料理などを学んだことが条件でしたので、ほとんどは学校を出た女性のたちでした。農村に暮らす人々を訪れた生活改良指導員がまず行ったのは、カマドの改善と食生活の指導で、人を集めるために幻灯も上映されました。

身近なことを工夫すれば暮らしが良くなるのだと気付いてほしい。自分たちで考えて、提案して、実現する力をつけてほしい。そんな気持ちで行われた生活改善運動ですが、前例のない新しい仕事に、現場は暗中模索の状態でした。指導員たちの多くは農村の実態を把握するのにまず苦勞し、「カマド屋さん」、「料理の先生」以上になかなか出来ませんでした。

しかし、農村女性の生活に関して問題意識を持っていた女性たちにとって、この時代の流れは、はばたくチャンスでした。

千葉県小御門村(現成田市名古屋近辺)にひばりクラブというグループが出来ました。ひばりクラブの活動は、藤枝文子さんという地元出身の指導者を得て、全国でも稀にみる成功例として注目されるまでになりました。その記録が、集会に使われたお寺に大切に保管されていました。彼女たちの活躍を見てみましょう。

### 資料提供

乗願寺 吉江浄善氏

農文協プロダクション

朝日新聞社

日本農業新聞

### 参考文献

スライド『共同田に立つ婦人たち』(c)農文協プロダクション

『思い出を語る 生活改良普及事業十周年記念』

『千葉県農業と歩んで半世紀』『農業千葉』特集号』

『くらしの中の問題』藤枝文子

ほか



古い資料などございましたら、ぜひ成田市立図書館市史担当までお知らせください。

成田市立図書館

〒286-0017  
成田市赤坂1-1-3

代表  
TEL 0476-27-4646

市史担当直通  
TEL 0476-27-2533  
FAX 0476-20-6132

# はばたく ひばりクラブ

戦後小御門村の女性たちと

生活改善運動



平成24年度市史展示

成田市立図書館

## 生活改善運動のはじまり

GHQの指導で、厚生省内に農村女性の生活環境改善と、地位の向上を目指す新しい課ができました。全国的に生活改善運動が展開されました。

## 県で

藤枝文子さんは、小御門村の村長を務めた藤枝源重郎さんの末娘。戦争のため地元に戻っていた藤枝さんは、昭和24年、生活改良普及員の第一期生として県庁に入り、小御門村に生活改善クラブを立ちあげました。

農村の生活をテーマに『農業千葉』に連載したコラムは読者の共感を呼び、『暮らしの中の問題』という1冊の本になりました。

県庁退職後、戸坂女子短大教授をつとめています。

## 村で

尋常小学校ができる前は、お寺が学校代わりでした。戦時中、農繁期託児所が推奨された時も、お寺で子どもたちを預かりました。お寺に集まって活動する、というのが受け入れられやすい土地柄でした。

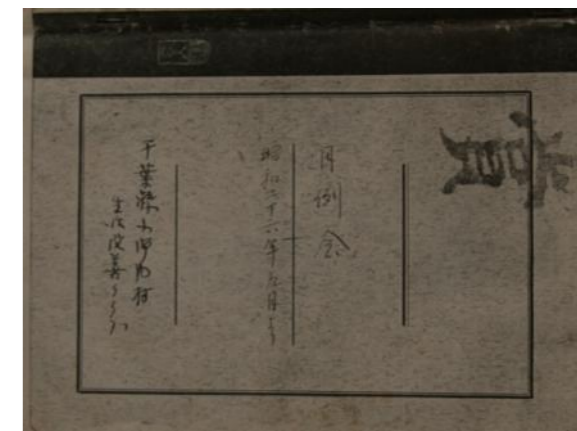
お寺の奥さん、吉江みつるさんは、藤枝さんの指導を受けながら、内宿地区のひばりクラブだけではなく、村中の生活改善運動の中心人物の一人として、精力的に活動していました。



朝日新聞 昭和27年7月31日 4面

荒れ地を開墾して、自分たちの田んぼに。獲れたお米の代金を活動資金にあてて生活改善を行ったひばりクラブは、全国でも稀に見る成功例として、新聞で大きく取り上げられました。

新聞記事がきっかけで、出版社の取材を受けることに。小御門の女性たちの活動が、スライド映画になりました。



月例会の記録ノート(写し)。当時の貴重な記録です。

県庁より招かれた講師の談話がこう記録されています。

『なぜ小御門村がモデル地区に選ばれたか。それは受け入れ体制が整っていたから。村長自らが率先して自分の家の冠婚葬祭を簡素化している。』

女性たちから始まった生活改善の動きは男性たちにも広がり、小御門村はモデル地区になりました

本展示は、成田市史研究36号に掲載されています「吉江浄善氏に聞く小御門村・下総町の歴史」聞き取り取材の際ご提供いただいた資料により構成いたしました。吉江氏及び、使用許可をくださいました各社のご協力に感謝いたします。

スライド映画『共同田に立つ婦人たち』(C)農文協プロダクション

全30コマです。郷土資料として図書館2階参考資料室にございます。(館内閲覧のみ)



穫れたお米は自分たちの収入に。さて、何に使いましょうか？



月に一度は農作業をおやすみ。おいしいものを作ったり、お裁縫をしたり。



県庁へ行って、カマドの作り方を教わってきました。先生役も村の女性です。



謄写版を購入。これでお知らせを作ってみんなに配ります。



たまには自分にご褒美。反物を買って一人一枚、新しい着物でお正月。